

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2000 四国山の日
FAX 088-821-4834
ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1068 2009年3月号

地域材の新たな利用拡大に向けて

「地域利用推進のためのシンポジウム」を開催

【詳細は2項へ掲載】



パネルディスカッションの様子



パネリストの方々



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

地域材の新たな利用拡大に向けて 「シンポジウム開催」

〈指導普及課〉

二月二十一日、高知市民プラザ「かるぼーと」小ホールにおいて、約二〇〇名の参加の下、「地域（四国）材の利用を推進するためのシンポジウム」を開催しました。

シンポジウムではまず、京都大学フィールド科学教育研究センターの芝正己准教授が、「地域材利用促進と新たな需要開拓について」と題して基調講演を行いました。ヨーロッパでの新たな需要事例やマンシヨンの内外壁への間伐材使用事例などを交え、木材利用を拡大していくた



基調講演



基調講演される
芝正己准教授

めには、県内、四国圏内にとどまらず関西、関東圏や海外までを視野に入れた取組が必要である。森林資源が豊富にある四国4県がその役割を担うことができると訴えました。

また、第二部のパネルディスカッションでは、「地域材利用について」をテーマに各分野の専門家や実際に地域材を使った家



パネルディスカッション

を建てた消費者が活発な意見交換をしました。
建築士などの専門家からは、「消費者ニーズを反映した家づくりには品質も重要だが、川上側の森林整備の必要性や森の働きなどを理解してもらおう取組も必要である」「木材の強さなど、木材に関する情報発信が不足している」などが、また、消費者からは、「木造住宅は腐れる、地震や火災に弱いというイメージを払拭することが重要」「木材の地産地消は地域の活性化や環境への負荷が軽減される」などの意見がありました。
四国森林管理局では、このシンポジウムを契機に、更に地域材利用促進に向け、関係県、機関等との連携を図っていくこととしていきます。



シンポジウムに参加した方々

『平成二十一年度ベトナム国別研修「持続可能な森林経営」に係る研修』を実施

〈森林技術センター〉

平成二十一年二月十六日から十七日の二日間、(独)国際協力機構より、ベトナム国別研修「持続可能な森林経営」に係る研修依頼があり、我が国が派遣している森林政策アドバイザーのカウンターパート五名を研修員として受け入れ、現地等での研修を実施しました。

初日に、四国森林管理局の概要、森林技術センターの活動概要について説明した後、二日目は、安芸森林管理署管



和田山試験地での研修

内の魚梁瀬地区にある森林技術センターの和田山試験地で、天然スギ林の更新技術について説明をしました。
天然更新については、「スギと広葉樹の混交林を目標とするのか」との質問があり、「先ずは試験地で天然更新手法を確立し、試験の成果が得られれば、スギの純林に近い林分へ移行させた後、最終的には広葉樹が混交する森林への誘導も可能と考える」等の説明を行いました。また、研修生はシカネットに興味を示し、その被害の現状と駆除の必要性の解説に真剣に耳を傾けていました。一方、ベトナムでは特にシカは精力のある食材と重宝される話題もあり笑いがおきました。
次の千本山林木遺伝資源保存林では、ヤナセスギの概況について説明を行いました。展望台付近では代表的な林分を見て、熱帯林とは違ったヤナセスギ大径木の様相に魅了されていたようでした。